

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	四郎丸高齢者グループホームおちあい
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	仙台市太白区四郎丸字大宮45-28
記入者名 (管理者)	山口 都詩子
記入日	平成 20年 7月 31日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	GHの生活圏域の方の入居者がほとんどであり、地域の中で継続性のある生活を支援している。 事業所独自の理念として「ゆっくり・楽しく・一緒に」を掲げ職員全員で取り組みつくりあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人職員にはオリエンテーションの際に理念について具体的に伝えている。また、毎月の職員会議でも確認し職員全員が共有認識の下、日々の支援に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居の際や家族会の時に理念について説明・報告しており理解を得ている。 運営会議でも事業計画書の報告で随時説明しており理念の浸透に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の家に上げてもらいお茶を頂いたり、近所の方が自宅で育てた花を持って来る等交流が持っている。 散歩や買い物の際の挨拶等、日々の関わりを大切にしている。 また、行事の芋煮会にも招待している。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入しており、総会や行事(盆踊り)・資源回収等に入居者と職員が積極的に参加している。	○ 地域活動として清掃活動等の参加に取り組み交流する機会を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族やボランティア来所時や運営推進会議で認知症について理解を深めていただけるよう実践や取り組みについて話している。 管理者が地域ケア会議に出席している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議を通し評価の意義を職員へ伝えている。 職員一人一人が自己評価票に目を通し記載することで振り返る機会が持っている。 評価結果は会議の場で報告話し合い改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではGH行事の取り組みの他、入居者の状況報告また、事故等が起きた際の改善策や取り組みについて報告し意見を頂いている。 推進委員よりボランティアの話しを頂き、傾聴ボランティアや行事の付き添いボランティア等に関わって頂き入居者と馴染みの関係が築けてきている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に発行している広報誌を市へ郵送している。 市及び区の担当者と随時電話等で連絡をとりサービスに関する情報収集をしている。仙台市が主催する研修会に積極的に参加、また実践者研修の受け入れを行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し理解を深めるよう努めている。 法人では行政書士による無料相談会を開催し気軽に相談が出来る場を設けている。 入居者にも権利擁護を利用している方がおり担当者と定期的に報告・連絡・相談をしている。	○	今後は家族の方に無料相談会についてPRし周知していくよう努めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり苑内研修で伝達研修を行うなど学ぶ機会を設けている。 職員会議でも話し合う場を設け、お互いの意見を聴く等し防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する前には見学に来て頂いたり、十分に話し合いをし理解を得た上で契約している。 また、解約の際も御家族様に入居者の状況やこれまでの経緯をきちんと説明、今後の対応についても話し合い理解と納得を得た上でやっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を話すことの出来る方からは随時意見を得ている。出来ない方に関しては代弁者として御家族や職員からの意見を考慮し運営に反映している。また、御家族様にはアンケートを行う等して、その意見を業務に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人が定期的に発行している広報紙を活用し職員の異動については報告をしている。健康状態については面会時に随時入居者の状況を報告。また、特変があった際や受診後にも状況報告を行っている。金銭管理については通帳のコピーをとり郵便物と共に郵送、その際GHでの様子等も記載し同封している	○ 個人別預かり金台帳もコピーし郵送しているが、使用目的等をきちんと説明、確認していただき家族の確認印をいただくようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会総会時や個々の面会時に意見や要望を聞く機会を設けている。また、情報処理第三者委員会を設置しており苦情解決に向けた体制が整備されている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員会議もしくはGHの職員会議で運営に関する報告を行い意見を聞く機会を設けている。また、個別面談等も随時行い職員の意見を反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や受診時などは勤務者を増やし柔軟に対応している。パート職員を含め人員を多く配置し入居者の要望に応じた対応が出来るよう環境を整備している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内においてGHの異動は極力最小にするよう考慮している。異動の際は、適性に応じて職員の配置を調整している。法人内GHゆきあいと職員の交換勤務を定期的実施していることにより顔なじみの職員が多い為異動の場合も利用者のダメージはあまり見られない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>GH協や老社協等の研修の他、実践者研修や管理者研修の受講等、各職員のスキルに応じて外部研修への参加を積極的に行っている。法人研修の苑内、苑外研修のほか自主研修を実施しており職員が自ら計画性を持って研修に取り組んでいる。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH協の研修会やブロック活動への参加を通して交流やネットワーク作りができています。全職員が平等に外部研修に参加できるように考慮している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ケアに対する悩みが解消できるよう日常的に話し合いをもっている。外部研修に参加し外部者と交流することでケアの悩みを共感し意見をj得ることで解決に役立っている。また、必要に応じ所長との個人面談を実施している。法人内の親睦会行事の実施やリフレッシュ休暇の取得等を実施している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員のスキルに応じた担当や役割を与えているほか、定期的な個人面談を実施しスーパーバイズを行っている。また、ISOの個人目標に基づいて各職員が担当の係りや各委員会の活動、自己学習や資格取得に向けて個々に取り組んでいる。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前本人との面談等を行い本人の思いを受け止めているほか、担当職員(副主任やケアマネなど)と本人が顔なじみの関係になった上で入居していただいている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居時のアセスメントのほか入居後も随時連絡を取りながら家族の思いや希望を聴き関係構築に努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聴き入れ、入居前の関連職員(担当ケアマネ等)の意見を考慮したり、かかりつけ医と連携をとるなどしタイムリーな支援を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がGHに馴染めるかどうかを把握する為体験利用を行い入居前に本人が見学したりホームにて他入居者と一緒に過ごす時間を入居前に数回設けている。その上で入居していただいている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念のもと日々入居者と共に過ごすことで、昔の知恵や家事等を教えていただく機会を多く持つようしている。入居者の得意な事はお願ひし、またそのことを他者との会話の糸口として支援できるようお互いの関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会との間で「みんなで大きな家族になろう」と話し合い職員と家族が一体となって本人を支えている。誕生会時は家族が台所に立つこともある。行事も家族会主催となって実施。その際、家族が不参加だった入居者の関わりも他の家族でカバーするなど全家族で支え合う関係が築けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思い、家族の思い両方を汲み取り仲介役として本人と家族とのよりよい関係の支援を行っている。本人の状態変化等も都度家族へ報告し関係が維持できるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時のアセスメントや入居後の本人との会話の中から馴染みの人や場所を把握するよう努めている。不穏時の声掛けのキーワードにしたり、実際に出向いてみるなど個々に応じた支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	相性などを把握して上で外出を行ったり、グループ分けなどを行っている。トラブル時には経過をよく観察し入居者の人間関係や思いを知る機会と捉え必要に応じた支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居者が退所する場合にはケアマネージャーが中心となり支援をしている。特養へ入所した入居者の所へホーム内の入居者が面会に行ったり、退所した入居者の家族がホームへ来所したりと付き合いが継続されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントのほか入居後も普通の会話の中から希望を引き出すようにしている。本人の訴えや希望があった際は職員同士で申し送りをし意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族に「発症経過シート」「バックグラウンド」の用紙に記入していただいているほか、入居後本人の会話の中から聞いた事を書き加え把握に努めている。居室の環境は入居前からの物を持ち込んで頂き、環境変化を大きくしないよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	「1日の流れ」の用紙に1日の状況を詳細に記載し個々の1日の過ごし方を把握している。入居前の生活スタイルを把握した上でその生活スタイルを継続できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	会議を通し話し合いを随時設け職員間で意見を出し合い入居者の希望に沿った介護計画を作成している。家族に確認が必要な場合は都度相談し対応している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1W～1ヶ月・3ヶ月単位での見直しを行っている。必要に応じ現状に即した計画への変更を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のファイルにまとめ具体的な内容を記録すること、また申し送りノートやサービス内容チェック表によりケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所が家族の代理として、家族と同様に关われるよう本人の要望に応じて通院、受診等の支援を行っている。本人の希望に応じて個別外出等、柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の訪問や、定期的な傾聴ボラや調理ボラなど地域のボランティアの受け入れを積極的に行い、協力を得ながら支援をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域団体のサークルが主催する行事等に本人の希望に応じて参加している。必要に応じて施設ケアマネや他の事業所も連絡し合い入所や利用に関しての相談を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進委員として運営推進会議に出席していただき、ホームの報告を行い意見を頂いている。長期的なケアマネジメントに関して協働できる環境にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ継続して関わる事ができている。必要に応じては入居時かかりつけ医と家族との面談を実施しており家族が気軽に相談できる関係作りができている。GHからもかかりつけ医へは24時間の連絡が可能であり、随時状態報告及び相談できる体制が整備されている。また、定期的な往診を受けている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時の声掛け、整容の乱れや汚れに対しては他入居者にわからないように配慮しさりげない支援を実施している。記録類の管理についても施錠できる棚へまとめて保管し、ガラス部分には目隠しをするなどし十分配慮している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で入居者自身が選択する機会を持てるよう支援している。(洋服・買い物・食事など) 一人一人に合わせた言葉、スピードで話しかけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせ希望に沿った支援を行うよう柔軟な対応に努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	生活場面に合わせた服装支援を行っている。入居前からの行きつけの理美容室がある場合には継続して利用できるよう支援しているほかホームの隣が美容院であり行き来してカットしてもらえる協力体制がある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは出来る限り携わってもらえるよう一人一人の力に応じて声掛けしている。 献立は入居者の好きな物を取り入れながら作成している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品についての制限は行っていない。行事の際にお酒を提供したり、おやつに希望の餅を提供するなど日常的に支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い個々の排泄パターンを把握している。出来る限りトイレで排泄が出来るよう時間と本人のサインを確認しながらトイレ誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間を広く設定し個々の希望に対応できるようにしている。毎日入浴の希望がある方は毎日入浴している。入浴剤の使用等により入浴への意欲が高まるよう工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は個々の身体状況、活動量に応じて休息の声掛けを行っている。日中の過ごし方を工夫するとともに眠れない場合は無理な就床支援は行わず落ち着いた雰囲気や心がけ飲み物を提供したり話し相手になることで自然に入眠出来るよう配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴を把握した上で清掃や食事の準備など自然の形で持てる力を発揮出来るよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できるかどうかを把握し、管理できる入居者に対しては財布の所持を促して買い物の支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・母体施設での行事など日常的に外出する機会を多く持てるようにしており個々の希望に応じて支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に墓参りに行ったり、散歩にいたりする機会を設けている。季節の行事ごとに定期的に小グループでの外出を計画、実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由に利用することが出来る。電話は必要時職員が取り次ぎを行い支援している。手紙は散歩がてら近所のポストに本人が投函できるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を定めず家族が気軽に来所できるよう配慮している。訪問した際は居室や共有スペースでもゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束廃止委員会を設置しホームの職員も委員として活動している。拘束のないケアに努め職員へも周知されている。実際に身体拘束は行っていないが、やむを得ず必要な場合は指針を定め、それに基づいた体制が整えられている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみ実施している。ただ例外的に職員が一人の時間帯に危険が予測される場合は短時間のみ施錠する場合もある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は入居者一人一人の見守り担当を決め所在確認や様子を把握している。夜間は定時に巡視を行っている。転倒の危険がある方に対しては数十分毎の巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や包丁などは施錠のできる棚に保管している。ハサミや裁縫道具など自己管理している入居者に対しては定期的にさりげなく確認しており、管理が難しくなった場合には保管場所を職員と一緒に決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々のリスクを予測し居室内環境の整備や食事形態の変更など随時見極めを行い対応している。職員も法人内研修等で事故防止のための学習を行っている。法人内でリスクマネジメント委員会を設置、介護事故予防マニュアルを作成し事故防止にに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人研修として定期的に応急手当や蘇生法について訓練を受けている。	○	実際に起きたときに対応出来るように都度会議の場で対応の確認を行っていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練には地域の防災協力員も一緒に参加している。その他避難経路や避難場所を明記した防災マップを作成している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	重度化における指針で家族には今後起こり得る状況について説明している。 状態に変化があった際も連絡をとり対応について随時報告している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	かかりつけ医の往診が定期的に行われている。日常の変化を見逃さず、看護師、かかりつけ医への報告・連絡・相談を速やかに行い、適切な対応を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容がすぐわかるようファイルにまとめ整理している。服薬チェックを徹底し服薬変更時には変更内容や効能などを申し送りノートに記載し全職員が把握している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩への働きかけや、水分補給・乳製品・野菜ジュース・食餌繊維の多く含まれた食材を多く取り入れるよう努めている。 便秘薬を内服している方には排便チェックし確認している。	○	散歩や軽体操など身体を動かす機会をもう少し意識して取り組んでいく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	協力医の歯科医との連携があり必要時往診を受けたり気軽に相談できる体制がとられている。毎食後のケアに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士によりカロリー計算がなされ、指導を受けて献立表を作成している。チェック表により水分及び栄養摂取状況を把握した上で代替食の工夫に取り組んでいる。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルがあり内容を定期的に各職員が確認しているほか会議や法人内研修で周知されている。インフルエンザの予防接種は入居者、職員が受けており予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士により留意することの指導を頂いたり衛生管理マニュアルに沿った対応を行い管理に努めている。食材は買い置きせず毎日新鮮なものを買ひ、食べ残しのない量で1回で食べできるように勤めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物は普通の平屋建てであり、町並みに溶け込んでいる。玄関先に入居者が世話をしているガーデニングがあり親しみやすい雰囲気作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や照明の調節を随時行っている。入居者の書いた掛け軸や絵画を飾っている。事務所の棚には木目調のシールを貼り家庭的な雰囲気作りを行っている。季節感を感じられるよう四季折々の生け花を飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖簾を掛け仕切りを作り事務所前にソファを設置し一人で過ごせる場所を設けている。事務所内へも自由に出入りできるようにしている。	○	事務所内を整理しゆったりくつろげるよう工夫したが尚、環境整備に取り組みたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものを持ち込むように家族へ働きかけを行っている。また、入居者の昔の作品を共有スペースに飾ったり、居室内に家族の写真を貼ったり安心して過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有空間・居室共に適宜換気を行いこまめに室温調整を行っている。なおに関しては換気その他消臭剤の利用や天気のよい日に布団を干したりしている。冬季は換気のほかに湿度の調節にも留意し対応している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のADLの変化に応じて手すりの増設等を都度行っている。入浴時の補助用具についても個々に応じて使い分けている。 危険を防止するだけでなく工夫することで本人の出来る力を伸ばそうとする意識を持ち取り組んでいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室前に目印をつけることで場所の間違いを軽減させている。また、個々の身体状況や理解力に合わせた居室の環境づくりを行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭ではウコッケイを飼育、入居者が卵をとったりすることも楽しみとなっている。また花を自由に植えたり、プランターを使用し野菜作り収穫を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・同じ地域からの入所を優先しており、入居後も同じ地域の中で継続性のある生活を送れるよう支援している。
- ・開設当初より家族会の協力が大きい。家族会主催で同法人GHゆきあいとの合同行事を開催するほか大掃除や入居者の誕生日会など家族が主体的に関わっている。
- ・職員以外への相談や話し相手として入居者と同じ世代（70代）のパート職員を配置している。
- ・中庭でウコッケイを飼っており、入居者が自発的にエサをあげたり卵を収穫する等役割が持っている。また、動きや鳴き声が入居者の目を引き会話の幅を広げている。